

幼稚園教育実習の現状

塚 田 まゆみ

The Present State of Kindergarten Teaching Practice

Mayumi Tsukada

本学では、生活学科こども学専攻に於いて所定の科目を履修し単位を取得すれば、保育士となる資格及び幼稚園教諭2種免許状取得が可能である。保育ニーズの多様化や幼保一元化の進行する現代にあっては、保育者としてこの二つのライセンスの取得は必要不可欠のものと言えよう。これらの資格・免許取得のためには当然のことながら、短期大学生生活2年の間に幼稚園教育実習を2回、保育士関係の実習を3回経験することになる。

今回の研究は、先行研究「幼稚園教育実習を通じた意識の変容 —保育者を目指す学生の意識調査1—」に継続するものである。

2回の幼稚園教育実習に於いて、実習の受け入れ先によって実習生として経験する内容や段階等に差異は生じていないかどうか、また、実習の回を重ねることの意義など、幼稚園教育実習がどのような役割と課題を担っているかについて、幼稚園教育実習の実際を把握し、考察していく。

さらに、今後、実りある幼稚園教育実習を推進していくために、学生を受け入れてくださる実習先の幼稚園とどのように連携を深めていけばよいのか、また、幼稚園教育実習事前事後指導の在り方や保育実習との関連等どうあればよいのかを検討していく。

Key words: [幼稚園教育実習] [保育者] [教育実習生] [幼稚園教諭] [自己評価]

(Received September 18, 2007)

I はじめに

人生を大木に例えて、乳幼児期はその根っこにあたる部分であると言われる。すばらしい未来を秘めて、強く、大きく、深くはりめぐらせてほしい大切な根っここの部分と言うわけであろう。

昨今、少子高齢化、女性の社会進出、価値観の多様化、種々の社会改革の進行、消費中心の生活、複合家族から核家族へという家族形態の変化や、地域共同体の変化等は、家庭生活や子どもの育ちに大きな影響をもたらしてきている。青少年による憂慮すべき悲惨な事件の発生やいじめ・虐待問題など多くの課題を社会に投げかけ、あらためて乳幼児期の在り方が重要視されてきている。

それらを背景に、保育のあり方も対応の仕方も当然変わらざるを得ない状況が出てきた。保育者養成校においても、時代のニーズに沿った多様な保育サービスに対応することのできる質

* 鹿児島純心女子短期大学生生活学科こども学専攻 (〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号)

の高い保育者の養成が求められている。

本学では、保育士となる資格及び幼稚園教諭2種免許状取得といういわゆるダブルライセンス取得に向けて日々取り組んで来ているわけであるが、これらの資格・免許取得のためには当然のことながら、短大生活2年の間に幼稚園教育実習2回、保育士関係の実習を3回経験することになる。

保育は理論的裏付けに基づいた実践によって成り立つものである。保育とは、自分の頭の中の思考によって完結するものではなく、自分の目の前にいる子どもと語り合い、共に活動し、共感し、世話をしたり教えたり支えたりという具体的な行為をすることによって理解していくものである。保育者とは、保育することによって成長し続ける仕事である。本人自身の向上心が問われる保育者という職業において、この教育実習の果たす役割はとても重要であると考えられる。

○ 幼稚園教育実習の意義

自分自身を幼稚園という保育現場において、体全体で理解すること。幼稚園とはどういうところなのかを体験し理解する。具体的には、幼稚園の一日はどのようなものか、幼児はどのような一日を過ごしているのか、保育という営みを支えている教師や保護者をはじめとするさまざまな人々の役割は何なのかなど、幼稚園という保育現場を総合的に知り、理解すること。

○ 幼稚園教育実習の目的

幼児や教師たちと生活を共にすることで、幼児や保育に関する知識をより確実なものにすること。同時に、教師の仕事について具体的に学習すること。

- ・養成校で学習した知識をより確実なものにすること。
- ・幼稚園教諭の仕事を具体的に学習すること。

○ 実習の方法

様々な実習の実施方法がある。その中から一つの分類方法を記す。

① 見学・観察実習

実際に幼稚園を見る。園児を見る。見ることで知識を得る・学ぶこと。

幼児の活動を注意深く詳しく見ること。

幼児を観察することは保育の基本である。

② 参加実習

担当指導教師と一緒に、実際に幼児と直接かかわりながら、幼児について学ぶ。

③ 研究保育（責任実習）

教師に代わって指導者として責任ある保育実践を実施する。ほとんどの場合指導案を書く。

部分（一日の中のある部分あるいは半日など）実習と全日（登園から降園まで）実習がある。

Ⅱ 本学における幼稚園教育実習の概要

表1 教育実習の時期

学年 期	1年次		2年次	
	前	後	前	後
実習体験		11月 2週間 幼稚園教育実習Ⅰ		10月 2週間 幼稚園教育実習Ⅱ
			8月 2週間 保育所・施設実習	
		2月 2週間 施設実習	6月 2週間 保育所実習	

表2 教育実習受け入れ先へお願いしている実習の目的及び内容

※基本的には、各実習幼稚園の進め方にお任せしている状況である。

前期実習 (実習Ⅰ)	目 的
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園および幼稚園教育についての理解 ・子ども理解 ・幼稚園教諭の職務の理解 ・実習Ⅱに向けた課題の把握
後期実習 (実習Ⅱ)	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園を理解する ・園生活の流れを理解する ・積極的にかかわって子どもを理解する ・園生活の一部分の指導計画を作成し実践する ・記録をとり、振り返りを大切にする
	目 的
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭としての資質や技能の習得 ・家庭や地域との連携の在り方及び子どもの理解
	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に即した支援の在り方を学ぶ ・一日の指導計画を作成し実践する ・保護者とのコミュニケーションの方法を学ぶ ・幼稚園と地域社会との連携の方法を学ぶ ・幼稚園教諭に求められる資質や技能に照らし合わせて自己の課題を明らかにする

Ⅲ 本学における幼稚園教育実習の実際と考察

<実際1>

表3 幼稚園教育実習で経験した実習の段階

(%)

		教育実習 I n = 94	教育実習 II n = 44
観 察 実 習		83.0	50.0
参 加 実 習		87.2	86.4
研究 保育	部 分	81.9	100.0
	全 日	19.1	75.0
調査時期 (対象)		2005.11 (1年生)	2006.10 (2年生)
		2006.11 (1年生)	

○ 表3の分析と考察

- ・教育実習 I は主に観察実習が中心となるが、初期の実習段階であるにも関わらず既に研究保育（部分）を経験させている幼稚園が少なくない。19.1%の学生に至っては全日の研究保育を経験している。自ら希望したというよりも、幼稚園側からの要請であったという。本県におけるほとんどの養成校が、養成校附属の教育実習幼稚園を持っており、その附属幼稚園に於いて教育実習 I を済ませてから、一般の外部での幼稚園実習に出向いている状況があるので、本学の学生も初めての教育実習にもかかわらず、いきなり教育実習 II なみの実習内容を要求されているものと思われる。本学の学生は、実習の初期の段階から高い実習内容を要求され苦勞しているようであるが、努力して、その要請に応えていることも確かである。
- ・教育実習 I では、観察実習を重要視している園が多い。保育の基本を大切にしていることがうかがえる。
- ・教育実習 II では全員の学生が研究保育を経験している。しかし、25%の実習生が、全日の研究保育を経験しないまま実習を終えてしまっている。実習生の時だからこそ、先輩に見守られながら、悪戦苦闘しながらでも全日保育を経験させていただきたいとも考える。
- ・90%近くの実習幼稚園に於いて教育実習 I の段階から参加実習を経験させてくださっている。わずかではあるが、教育実習 I では参加実習も全く経験しない実習生もいる。

<実際2>

表4 幼稚園教育実習で経験した内容と本人評価

・本人評価 ○十分できた ○ほぼできた △不足した (%)

		教育実習 I n = 94		教育実習 II n = 44		
1	実際に子どもとかかわる機会を持つ	◎	95.7	100.0	97.7	100.0
		○	4.3		2.3	
		△	0		0	
2	講義などで学んできた子どもと実際の子どもとの違いを知る	◎	35.5	90.3	31.8	93.2
		○	54.8		61.4	
		△	9.7		6.8	
3	幼稚園教諭の職務について知る	◎	61.3	76.8	61.4	100.0
		○	35.5		38.6	
		△	3.2		0	
4	幼稚園教諭の支援の仕方について学ぶ	◎	67.7	100.0	74.4	97.7
		○	32.3		23.3	
		△	0		2.3	
5	実際に子どもとかかわることを通して教師の動きと自分の動きの差を知る	◎	65.9	95.6	83.7	100.0
		○	29.7		16.3	
		△	4.4		0	
6	これまで学んできた知識と技術を保育現場で実践する	◎	18.3	81.7	46.5	97.6
		○	63.4		51.1	
		△	18.3		2.4	
7	観察実習を経て、研究保育を経験する (部分・全日どちらかでも可)	◎	58.6	86.2	83.3	100.0
		○	27.6		16.7	
		△	13.8		0	
8	実際に親や地域の人とかかわる機会を持つ	◎	20.4	70.9	23.3	81.4
		○	50.5		58.1	
		△	29.1		18.6	
9	次回の実習の課題を見つける	◎	79.6	100.0	69.4	100.0
		○	20.4		30.6	
		△	0		0	
・調査時期 (対象)		2005.11 (1年生)		2006.10 (2年生)		
		2006.11 (1年生)				

○ 表4の分析と考察

・本人の評価によると、当然のことではあるが教育実習 I よりも II の方が全体的に◎や○を付ける学生が増え、良好な状態になっている。

◎と○を合計するとどの項目も90%に近い良い評価である。しかし、項目8の「実際に親や地域の人と関わる機会を持つ」に関しては、まだかかわりが十分とまでは行っていない。

・実習 II においては、◎と○を合わせると9項目のうち5項目に於いて100%に達している。

・教育実習 I にあっては、6の項の「これまで学んできた知識と技術を保育現場で実践する」と、7の項「観察実習を経て、研究保育を経験する」が、80%台で他よりやや低い数値を示しているが、その項も教育実習 II に至ってはかなり完璧に近い数値にあがっている。

・実習が済むごとに、課題を見つけ、次への学びの意欲が図られたものと思われる。

<実際3>

表5 教育実習終了後の学生の自己評価

・本人評価 ◎十分できた ○できた △できなかった (%)

			教育実習Ⅰ n=94		教育実習Ⅱ n=44	
1	遅刻・欠席はなかったか	◎	98.9	98.9	95.5	100.0
		○	0		4.5	
		△	1.1		0	
2	体調管理はできたか	◎	52.7	68.8	88.7	95.5
		○	16.1		6.8	
		△	31.2		4.5	
3	明るく誰にでもあいさつできたか。返事はどうだったか	◎	87.1	97.9	100.0	100.0
		○	10.8		0	
		△	2.1		0	
4	笑顔を忘れずにできたか	◎	93.6	97.9	97.7	100.0
		○	4.3		2.3	
		△	2.1		0	
5	はきはきとていねいな言葉づかいができたか	◎	66.7	99.0	88.6	100.0
		○	32.3		11.4	
		△	1.0		0	
6	積極的にできたか(質問・掃除・ことばかけ他)	◎	68.9	97.9	84.1	100.0
		○	29.0		15.9	
		△	2.1		0	
7	準備にぬかりはなかったか(保育技術など)	◎	59.1	90.3	75.0	100.0
		○	31.2		15.9	
		△	9.7		9.1	
8	忘れ物はなかったか	◎	83.9	95.7	93.2	100.0
		○	11.8		6.8	
		△	4.3		0	
9	報告・連絡・相談ができたか	◎	73.1	93.5	90.9	100.0
		○	20.4		9.1	
		△	6.5		0	
10	失敗を次に活かす努力ができたか	◎	82.8	100.0	95.5	100.0
		○	17.2		4.5	
		△	0		0	
・調査時期(対象)			2005.11(1年生)		2006.10(2年生)	
			2006.11(1年生)			

○ 表5の分析と考察

- ・教育実習に臨む実習生の姿勢についての自己評価である。1の項「遅刻・欠席」と2の項「体調管理」については、養成校で実習前に指導を受けて臨んだにもかかわらず、教育実習Ⅰに於いて、何はともあれまず体調管理が一番であるという貴重な体験をし、その経験を生かして教育実習Ⅱにおいては体調管理をしっかりと、「遅刻・欠席」なしの状況が作られたようである。
- ・3の項の「あいさつ」と、4の項の「笑顔」、5の項の「ていねいな言葉づかい」に関しては、本学の学生全体が、外部からいつも嬉しい評価をいただく項目である。
- ・「積極性」に関しては、どの養成校の実習生にも共通することがらとして、実習のはじめの時期は消極的であるが、日にちが経つほどに積極的になるとのことである。本学の学生

も教育実習Ⅱになると◎の評価を付けた学生が84.1%と、かなり良い傾向であった。

- ・7の項「保育技術などの準備」に関しては、まだ十分でないとの見方も出来るが、熟練したベテランの保育士でさえ十分に出来たと感じられるのはなかなか難しいことを思うと、本学の学生は実習生としては「努力している」と見ることも出来るのではないだろうか。
- ・「忘れ物」「報告・連絡・相談」をはじめとして、全ての項目について教育実習Ⅰの反省が教育実習Ⅱにしっかり活かされていることがうかがえる。

※幼稚園教育実習Ⅰを終えて…教育実習報告会での学生の感想から

○自分を誉めてあげたいところ

- ・いつも笑顔でいることに努めた
- ・子どもと同じ目線で見ることが出来た
- ・きつく指導されても、どんな時でもめげずに弱音を吐かず、そのエネルギーを自分の力に換えて頑張ったところ
- ・子どもの名前を覚えた
- ・積極的に子どもと関わった
- ・掃除
- ・不安ばかりだったが、頑張り通した
- ・絵本や折り紙の準備

○自分が「こうすれば良かったのに」と思うこと

- ・園児にばかり気が向いてしまって、先生方の指導の姿を十分に観察できなかった
- ・保育技術面の力量不足
- ・体調管理 ・環境構成への配慮
- ・言葉かけを丁寧に
- ・子どもとの接し方 ・もっと自分をさらけ出せば良かった
- ・報告、連絡、相談を十分に

○最も印象的だったこと

- ・お誕生会で、先生方の一員としてオペレッタをさせていただいたこと
- ・お遊戯会に向けて、子どもも先生方も張り切っていらしたこと
子どもたちのその成長ぶり
- ・縦割り保育での園児の優しさ
- ・研究保育……準備不足や対応力のなさを実感、子どもたちの言葉に助けられた
- ・子どもたちの動き……予想を遙かに超える行動力、範囲
- ・「先生」と初めて呼ばれたこと
- ・送迎バスに乗れたこと
- ・園の行事への参加……研修会、ミカン狩り
- ・指導者から「実習期間で子どもたちも成長したし、私も色々気づくことが出来た。ありがとう」といわれたこと

★大変ご迷惑をおかけしたのに熱心に指導していただいたこと

<実際4>

幼稚園実習報告会から

○幼稚園教育実習Ⅰを終えて

幼稚園実習Ⅰ報告会

C1A-

私は、鹿児島県 にある「幼稚園」で実習をさせていただきました。

幼稚園は、年長3クラス(松、竹、梅)、年中3クラス(空、星、月)、年少3クラス(花、虹、コスモ)の計9クラス、総園児数230名で構成されています。その中で私は、男児15名・女児13名、計28名の花組さんに 日間入らせていただき、参加実習をしました。

幼稚園の1日の流れを言います。7:30~順次登園、9:00~園庭での自由あそび、9:45~それぞれのクラスにもどり朝の会、10:30~教室で自由あそびやお遊戯会の練習、11:30~給食準備、11:50~給食、12:45~後片付け、歯みがき、うがい、13:00~お遊戯練習、13:20~お帰りの会、13:45~園庭にて全員で体操、さようならのあいさつ、14:00~降園、その後は、あずかり保育・お迎え待ちの子どもは園庭で自由にあそび、14:30には後片付けをして教室に入り、歌をうたったり、おやつを食べたり、絵本やテレビを見たりしながら迎えを待つ…というものでした。

私は今回の実習に対して万全の体制ではなく、常に不安や緊張と隣り合わせにいました。なかでも1番の悩みはピアノがうまく弾けないということです。「音楽Ⅱ」のピアノの授業では、毎週

先生のととてもとても熱心な指導を受けているのですが、短大に入ってからピアノを始めた私は、ピアノの技術がまったくありません。普段の「音楽Ⅱ」の授業でもスムーズに弾けたことは1回もなく、特に、周りの人に聴かれている状況だと、ありえないくらい指がもつれます。そんな私が、たくさん子どもたちの前で、子どもたちの視線を背中を感じながらピアノを演奏するという状況に耐えられるわけがありません。案の定、実習中にピアノを弾いた際には毎回引つかかって途中で何回も演奏が止まってしまい、後ろを見ると、そこには子どもたちのぼかんとした表情がありました。その様子を担任の先生もすべて見ていらしたのですが…その日の反省会のことです。そのとき担当の先生に対しては、怒っているときの印象が強く残っており、少し恐いなと思っていました。しかし反省会の際に「緊張も加わってピアノがスムーズに弾けません。」と言うと、「初めての实習なんだよね??初めてだったら緊張するのはしょうがないと思うよ。私だって子どもの前で弾くときはいまだに緊張するし、間違うときもあるからね。こういう場に触れて、何回も経験を重ねれば徐々に緊張はなくなるから。慣れが大事だよ。」と教えてください、その後には、ピアノの前に行き、「左手はこう弾いたら弾きやすいと思うよ」、「わからなくなったら右手でメロディーを弾くだけでも子どもたちはうたってくれるよ」と、直々にアドバイスをしてくださいました。「なんでこんな簡単な曲も弾けないの!?!」「ちゃんと練習してきたの!?!」と注意されるのではないかとヒヤヒヤ・ドキドキしていた私は、先生のこの言葉を聞き、とても嬉しく、励まされました。次の日からは、間違ってもいいから自覚を持って弾こう!と開き直り、元気よく笑顔で弾くことを心がけました。緊張をといってください先生に感謝し、この場を借りてお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

今回の実習には、ネームを作っていました。「 」と書いたネームを腰の位置につけていると、担当のクラスの子もだけでなく、他のクラスの子もたちからも「これなんて読むの?」「なんて書いてあるの?」と聞かれ、「これはね~ “ ” 先生って書いてあるんだよ」と答えることで、多くの子どもたちに名前を覚えてもらうきっかけになったので、ネームの存在は大きいなと思いました。

今回の実習を通して、絵本の読み聞かせや指あそびを行う際に注意しなければならないこと、責任感や積極性、健康管理の大切さなど、さまざまなことを得ました。失敗したことの改善をはかり、先生にピアノを教わって必死に練習し、次回の実習での課題にしたいと思います。

毎日の清掃活動で手にマメができたり、最終日には子どもたち全員から似顔絵をいただいたりと、とても貴重な経験ができましたことに感謝します。ありがとうございました。

○幼稚園教育実習Ⅱを終えて

★平成17/18年度幼稚園教育実習報告書

C2A 番氏名

実習Ⅰ幼稚園 (市町村 幼稚園) _____
 実習Ⅱ幼稚園 (市町村 幼稚園) _____

幼稚園教育実習が終了しました。実習Ⅰ・実習Ⅱ含めて実習に対する反省をしてください。
 (反省の内容…幼稚園教育・幼児の理解に関するもの、保育実践に関するもの、実習生自身に関するもの、実習園に関するもの etc.)

私が幼稚園実習を2度終え、思ったことはこの幼稚園で実習出来て良かったということ。最初何をやるのかも分からずに臨んだ1回目の実習。園の流れ、保育者としての役割、子ども達との接し方何に対しても消極的で、誰からか話しかけられるまでひたすら待っていました。ある先生から様々なことを指摘されてもなご言われているのか理解出来ず、不安を持ったまままだ実習をしていたと思えます。部分実習などの指導案や日誌も簡潔であり深く踏み込んで書いていなかったと思います。

それから、施設実習、保育所実習を終えていくうちに、子どもとはどういうものであるのか。保育者の役割や言葉掛けの仕方、保護者との対応などが次第に分かってくるようになりました。状況を見てどのような判断をするのか経験を増していくにつれて理解出来るようになってきました。

そして今回行われた2度目の幼稚園実習。最後の実習でもあるので、僅々とした態度で自信を持ち悔いの残らぬようにというのを心掛けてから実習に臨みました。丁度運動会シーズンということで、1週目は毎日運動会の練習でした。様々な用具や楽器を準備したり、運んだりすることが多く、戸惑うことがありましたが、分からない場合はまず聞いてみようと思っていたので、素直に何をすればいいのか聞いて行動していました。また、先生方が今どんなことをしているのかを見て、自分は何をすべきかを考えたりしました。すると、先生方の働きかけが予想され、次は何を準備したらいいのか気がきました。

*運動会が終わり、2週目は研究保育・1日保育と忙しかったです。保育園の設定保育をした日と同じような指導案を提出すると、「誰が見ても、この指導案通りに保育がすることが出来るように詳しく書いてください」と言われ指導案を見みると、赤でたくさん訂正がしてありました。今までこんなに丁寧に訂正されたことはなかったため、最初上書きショックをうけました。しかし、これは自分を変えるための良い機会だと思い、自分で納得がいくように何度も考え直し、製作の試作品も何度も先生と話し合っ検討しました。そしてむかえた本番。緊張はしていました。準備も指導案もしっかりと書いていたため自信を持って臨むことが出来ました。また、活動に自分自身が夢中になって取り組むことが出来ました。

実習が終了後の反省会で、主任の先生が「1年でよく成長したね」と誉めてくださった時は涙がでそうなぐらい嬉しかったです。やはり、最初と最後は同じ幼稚園で良かったです。自分でもどのぐらいの成長が身に付き、成長することが出来たのか分かりました。卒からこのこともあったけど、とても充実して楽しく実習を終えることが出来て良かったです。

あなたの実習Ⅱへの自己採点は50点満点の何点ですか。それはなぜ？
 日誌の記入の仕方や指導案を自分が出来る限りの努力をして書いたこと。
 45点 研究保育を自分で自信を持って実施することが出来たから。

Ⅳ おわりに

現在使われている幼稚園教育要領の第1章総則<1幼稚園教育の基本>を抜粋する。

《幼稚園教育は、学校教育法第77条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

このため、教師は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。これらを踏まえ、次に示す事項を重視して教育を行わなければならない。

(中略)

その際、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとのかかわりが重要であることを踏まえ、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、教師は、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。》

このように、子どもとのかかわりという点からみると、「教師は、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない」との文言から、教師は「幼児の精神的拠り所」「憧れを形成するモデル」「幼児との共同作業、共鳴者」「幼児の理解者」としての役割が期待されている。

保育所保育指針においても、第3章から第10章までの年齢別保育内容の中に「保育士の姿勢と関わり方の視点」が設けられ、子どもの発達に関して保育者の適切な関わり的重要性が強調されている。

専門職としての保育者の責任は、子どもの幸せを第一に考え、子どもの「生きる力」を守りはぐくむことである。具体的には子どもの生命を守り、必要な世話をしながら、子どもの成長に即して子ども自らが自分の健康や安全に気配りして、生活の仕方を身につけ、その子らしく自立に向かい成長していくように指導、援助していくことである。

教育や保育という営みは、大人と子どもが相互の信頼を基盤に共同の生活を生み出すことである。貴重な2回の幼稚園教育実習が、学生にとって実り多いものになるために、教育実習事前事後指導の充実をはじめとして、実習先・実習時期・保育実習との関連性を持った幼稚園教育実習の在り方などを検討しなければならない。本学のこども学専攻が1クラス編成という個々への対応が可能であるという適正規模を活かした実習の在り方等本学のカリキュラム編成の在り方までも含めた検討を進めていかなければならない。

保育者は乳幼児期の子どもを預かるという人生の中で最も重要である時期の人を育てる人である。豊かな人間性を備えた保育者、社会のニーズに応えられる質の高い専門職としての保育者を養成することの社会的使命と責任の重大さを肝に銘じながら、今後も学生の心に寄り添いながら精進してまいりたい。

今回の論文作成にあたってご協力いただいた教育実習幼稚園、生活学科こども学専攻の実習生、泊先生に心からの謝意を申し上げます。

【引用・参考文献】

- 文部科学省「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館（平成11年）
厚生省「保育所保育指針」（平成11年厚生省発表の全文） フレーベル館（平成11年）
民秋言他：保育ライブラリ 幼稚園実習 北大路書房（2004）
小館静枝・小林育子：保育所・幼稚園実習のすべて 相川書房（2001）
河邊貴子・鈴木隆：保育・教育実習 フィールドで学ぼう 同文書院（2006）
森上史朗・大豆生田啓友：幼稚園実習 保育所・施設実習12 ミネルヴァ書房（2004）
田中正浩他：免許取得に対応した幼稚園教育実習 学事出版（2002）
待井和江他：保育実習・教育実習 ミネルヴァ書房（2003）
田中まさ子他：幼稚園・保育所実習ハンドブック（株）みらい（2004）
民秋言：保育の現場を知る幼稚園実習 北大路書房（2004）
阿部恵・鈴木みゆき：教育・保育実習安心ガイド126 ひかりのくに（2004）
小川清実：幼稚園実習 7-12 樹村房（2004）
小林育子他：幼稚園・保育所・施設実習ワーク 萌文書林（2006）
保育者養成研究会：幼稚園教育実習記録 保育出版社（2001）
保育者養成研究会：保育実習（保育所・施設）記録 保育出版社（平成11年）
鹿児島純心女子短期大学：幼稚園教育実習・保育実習の手引き（2005・2006）

